

下部消化管(大腸)内視鏡検査を受けられる方へ

下記の方は、健康センターではこの検査は実施できません。

- 妊娠中の方、妊娠の可能性がある方
- 授乳中の方
- 76歳以上の方
- 人工透析中の方
- 腸管の閉塞、出血、炎症が疑われる方

下記の方は、健康センターではこの検査が中止になる可能性があります。

- 便秘が強い
- 腸閉塞や腹部手術の既往がある(事前にご相談下さい)
- 心疾患、アレルギー体質がある
- 当日収縮期血圧 180mmHg

検査にあたってのご注意

検査当日、大腸内に便が残っていると、観察が不十分となるため、腸管洗浄液(モビプレップ)による腸管内の洗浄を行います。

検査 2 日前から

○食事内容に注意があります。

下記の摂取不可の食品は避けて、通常通りの食事をお召し上がり下さい。

牛乳・ヨーグルト等の乳製品、ブドウ・スイカなどの種のある果物、こんにゃく・海藻・ひじき・トマト・トウモロコシ・リンゴ・なし・みかん等の食物繊維が多い物

○便秘があると、確実な検査ができません。

便秘薬を常用している方は、内服して便通を整えてお越し下さい。

○夕食は午後 9 時までにお済ませ下さい。

(脱水による体調不良を防ぐため、水はお飲み下さい。)

○就寝前のお薬は、普段通りにお飲み下さい。



検査当日

○朝食は、食べないで下さい。

(脱水による体調不良を防ぐため、水はお飲み下さい。)

○朝分のお薬はお飲み下さい。

ただし、糖尿病でインスリン注射をしていらっしゃる方は、当日の注射はしないで下さい。糖尿病のお薬も内服しないで下さい。

○トイレに何回も通いますのでトイレに行きやすい服装でお越し下さい。

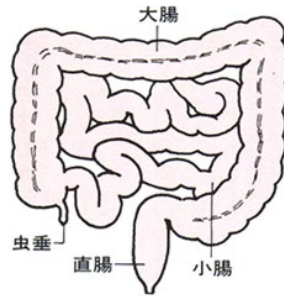
○念のため下着を一組お持ち下さい。(検査時は、検査着に着替えます。)

○検査は一日かかりますので、他の予定は入れないで下さい。

裏面もご覧下さい

検査方法

下部消化管内視鏡検査は内視鏡を、肛門から盲腸まで挿入して大腸を詳しく観察します。



検査の手順

① 健康センターで腸管洗浄液を服用します

- ・腸の中を綺麗にするために、モビプレップ[®] という腸管洗浄液 2 リットル、お水 1 リットルを 2～3 時間ほどかけて飲んでいただきます。
 - ・トイレに 5～10 回程通います。
 - ・便の色が黄色、透明になるまで、お飲みいただきます。
 - ・飲んでいる間は、排便を促すために積極的に歩きましょう。
- ※服用に不安がある方は、事前にご相談下さい。



検査は夕方まで掛かります。

検査の順番は便の状況等により決めさせていただきます。

② 内視鏡センターに移動し検査着に着替えます。

③ 検査開始

- ・肛門と内視鏡にすべりを良くし痛みを和らげるゼリーの薬を塗って検査を始めます。3 カ所ほど強く屈曲したところがあり、そこを内視鏡が通過する際に多少痛みがあったりお腹が張ったりします。検査時間は約15分～30 分程度です。

終了後、お腹の張りが少し残りますが、ガスが出ることにより治まります。お腹の張りがなければ、30 分程で飲食ができます。水分補給を心がけて下さい。

心配なことがございましたら、相澤健康センターまでご連絡ください。



下部消化管(大腸)内視鏡検査 説明書

1. この検査の目的

この検査は、肛門から内視鏡を挿入し、大腸(直腸・S状結腸・下行結腸・横行結腸・上行結腸・盲腸)を観察し(図1)、ポリープ、がん、炎症などの病気の診断を行います。

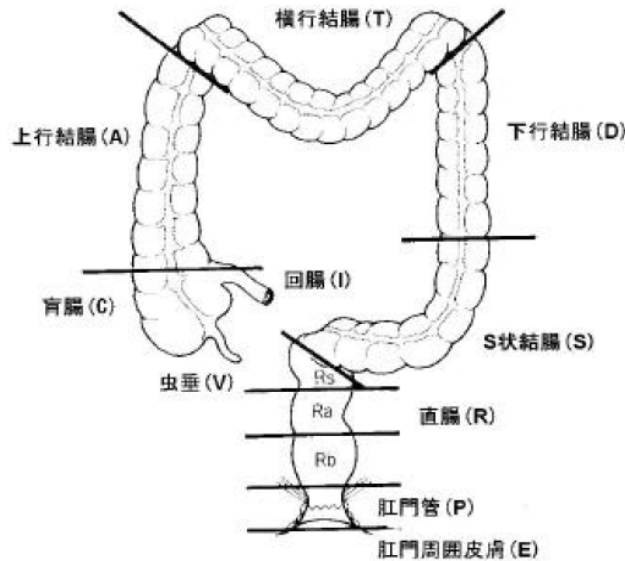


図1 大腸各部の名称

2. 検査の内容・性格・注意事項

検査前日の 21 時以降は食事を摂取しないでください(飲水は可)。また、便秘の強い方は、下剤をお勧めする場合がありますので、あらかじめお申し出ください。検査当日の内容と注意事項は以下の通りです。

① 前処置

大腸内に便が残っていると、観察が不十分となるため、腸管洗浄液(モビプレップ®)による腸管内の洗浄を行います(「下部内視鏡検査を受けられる方へ」をご覧ください)。

② 内視鏡の挿入

内視鏡を肛門から挿入し、大腸を短縮しながら、内視鏡を盲腸まで到達させます(図1)。内視鏡挿入時に痛みが強い場合(お腹の手術を受け腸管癒着が強い方など)、医師判断により、検査を中止にします。

③ 内視鏡による大腸の観察

内視鏡を通じて空気を送り、大腸を膨らませて観察を行いながら、内視鏡を抜いてきます。そのため、検査中は多少お腹が張ります。

④ 生検(組織採取)

検査中に組織を採取すること(生検)があります。この場合少量の出血を伴いますが、通常、自然に止まります。しかし、まれに出血が持続したり、大量出血となる場合があります。

血液が固まるのを防ぐ薬(ワーファリン®、パナルジン、バファリン®など)を服用中の方や肝臓疾患・血液疾患のある方などは、その危険が増すため生検を行ないませんので、必ずお申し出ください。

3. 検査の内容・性格・注意事項

①腸管洗浄液によるもの

特に腸管狭窄(がんや炎症による影響で腸が狭くなっている)が存在する場合には、ごくまれに腸管内圧上昇により穿孔を起こす場合があります。症状や他の検査にて、腸管狭窄が疑われる方には、腸管洗浄液の使用は控えますが、事前に予測が不可能な場合があります。

②検査自体によるもの

内視鏡検査時、ごくまれに、大腸を傷つける事により、出血や穿孔(大腸に孔(あな)があく)などを起こすことがあります。

なお、出血がひどい場合には、内視鏡的処置や輸血が必要となることがあります。また、止血が困難な場合や穿孔が生じた場合には手術となることがあります。

その際診療は、保険診療で行いますのでご了承下さい。

4. 検査後の注意事項

生検が行われた場合には、帰宅後、再出血することがあるので、体の違和感や血便などにお気付きの場合には、遠慮なくご連絡ください。

5. 代替可能な検査(※注腸造影は健康センターでは行なっていません。)

大腸の検査は、上述の内視鏡検査以外に、大腸 CT や注腸造影があります。しかし、ある程度大きな病変の有無の確認は可能ですが、小さな病変や平坦なポリープなどの発見は内視鏡検査に劣ります。さらに異常を認めた場合に生検(上述)を行うことができません。

6. 検査の同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは同意を取り消すことができます。同意を撤回される場合は、その旨を健康センター職員までお申し出下さい。

7. 問い合わせ先

この検査について質問がある場合は、健康センターまでご連絡下さい。